

認定看護管理者

地域と病院のつながりを大切にしています。

***笑顔で働き、地域に貢献できる看護師でありたい**

認定看護管理者は施設において、看護の質の向上や看護業務の管理、看護師教育やスキルの向上など多くの役割があります。また、多様なヘルスケアニーズを持つ地域の方々が安心して暮らせるように、医療・看護サービスを提供していくことも大切な役割です。

看護する側がやりがいを持ち、笑顔で看護を提供していくことが、患者様の回復する力を支えることに繋がっていくと思います。少子高齢化により働き手の減少が見込まれると言われている昨今、看護部では長く当院で働いていただけるよう業務改善や環境改善、院内教育計画の見直しを行い、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。業務改善や環境改善には看護部だけではなく多職種で連携し活動をしています。

院外の活動として、先日『市政出前講座』として生涯学習交流館で市民の皆さまを対象にお話をさせていただきました。機会がありました。その中で、静岡県の健康寿命は、男女ともに都道府県別で第1位であると話しました。県を挙げてこの健康寿命第1位を維持していこうという動きもあります。参加された市民の皆さまは、健康に関する意識が高く、私の話にも関心を寄せてくださいました。このような経験は私にとっても、市民の皆さまの声を直接聞け、良い刺激になりました。今後も健康維持の話や人生をよりよく生きていくための意思決定支援の話など伝える機会を作っていき、健康寿命第1位維持に少しでも貢献していきたいと思っています。

また、院外で活動し自身が学んだことを院内の活動や指導に活かしていきたいです。



看護科長 浦山明子
認定看護管理者

***住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう活動していきます**

看護婦の時代から働きはじめ三十年以上が経過し、入職時に比べ社会状況は大きく変化してきました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を体験し、時々刻々と変化する事態に対応しきれず戸惑うこともありました。看護師としてもっとスキルアップしていく必要があると痛感し認定看護管理者の研修を受講し、令和五年十二月に資格を取得しました。少子高齢化が進み、今までの病院中心の医療から、病気や障害などを抱えながら住み慣れた地域で暮らしていく地域完結型の保健・医療・介護・福祉へと転換がはかられています。今後、看護師は「医療」と「生活」の両方の視点から支援していくことが求められています。認定看護管理者の役割は人材育成など幅広く、自施設だけでなく、地域の医療機関や施設などとの連携を図り、地域全体の医療・看護の質の向上に努めていくことです。

清水病院での訪問看護・ケアマネジャーなど多職種との交流会や、毎月清水区の在宅医療や地域ケアに関わる多職種の連携の会に参加させていただき、情報交換をしています。現在回復期リハビリテーション病棟に勤務しているため、担当者会議や患者様の生活の場であるご自宅に何う同行外出を行っています。退院後の生活について多職種で、その患者様に合った支援を検討しています。日頃から顔の見える関係づくりやお互いを理解し、市民の方々が安心できる医療・看護を提供していきたいと思っています。



回復期リハビリ病棟/師長 川口保乃
認定看護管理者

